

大和國侍之事

一 添下郡筒井頼慶者父祖追衛殺末業く由傳祖父と頼政
と親父と頼真と云え末南郡衆徒く家と云傳ふ頼慶
量のく武威と振い國中過半討過て筒井丹平城と
築い居城と自ら領知六万石と云く頼業廣く人あり
應仁年中より頼慶大和礼と及し之より自ら取くめく名
く頼強剛のく和談と行る所ぬ水澤近か御之秀筒井と
手入る元是悟めく人教と稱くは後よりおかし頼慶く
筒井より市町はより西梅檀本村よりあまきくお向く頼慶く
之手は遠く道松金大迫也人又國侍等過く是松と云ふ頼
平と頼向の軍初り松永之秀く先手敗北と頼慶之の軍
まて追討のくあし信長と長進くは信長くちの松永
人教と過く是のれは依長く筒井人教と過くは皆敗軍也
く筒井筑きた太城へ入事不成く直東山中や多郡へ
あがり其以や多の城ぬは杖山く仁波居のく頼慶の
由致のく彼城も居す頼慶へ下りし衆山狩りく松永
く秀くや多人人教と差向一勢も及るく智謀と云く
は乃く頼慶く大和國侍の皆く過い玉附其とき取く城り
遠知十市の城ぬは常陸介頼慶の味方人ありは兩城は
細く険い山ありや多ぬは番坂より切通く入口ありき
た木貴入る事と不及く南都東大寺乃か北に
あり小い山ありけ所と築く南ぬは谷川と要害也
く多頼作り丹城と取之入和一過丹平と下は是悟おん
く國侍衆の半不討過ては不ぬ頼慶は市城と丹戸